

「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」が第3回 NITS 大賞 優秀賞 を受賞しました。

「NITS 大賞」は、独立行政法人教職員支援機構（NITS・ニッツ）が、学校をとりまく課題の解決に向けて実践した取り組みを広く募集し、表彰・公開することにより、教育の現場に優れた取り組みを普及していく事業です。

「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」は「地域とともにある学校づくりを目指して、学校全体で組織的・計画的に地域参画に取り組み、多様なステークホルダーの理解を得て、学校をとりまく課題を改善した実践活動」として「地域とともにある学校実践部門」で、エントリーしました。

全国 322 件の応募から、部門横断で 10 点の優秀賞に選ばれ、高校では唯一の受賞となりました。

令和 2 年 2 月 2 日に行われたプレゼンテーションの様子は後日、YouTube 上の NITS チャンネルおよび NITS ホームページで公開されます。



※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリーシート	部門 地域とともにある学校部門	学校名 岩手県立遠野高等学校
※事務局記入欄		
No. : -	活動名 新遠野物語プロジェクト ～地域との協働による人材育成～	

課題の設定：
 地域の活力低下が問題となっている中で、持続可能な地域社会を建設していくためには、地域の課題に根ざした問題解決や探究活動を通じた学びで、自己のあり方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を備えた人材が不可欠である。このような人材の育成は、学校、あるいは地域の一方による教育で育成できるものではなく、両者が協働し、学びのシステムを構築していくことで可能になるものと考えられる。【資料1】

方針・計画：
 上記のような資質・能力を備えた人材がこれからの地域社会を担っていくことが期待され、地域社会への還元となるものとする。このような人材を育成するために、高校が核となり地域諸団体を巻き込んでコンソーシアムを形成する。そして高校及び地域諸団体が協働しながら、地域課題に根ざした多数のゼミナールを開講する。生徒は自らの課題意識に添ったゼミを受講し、課題の発見とその解決に向けて実践的な活動を行う。【資料2】

活動内容：
 地域諸団体と高校が協働して、年間十数回のゼミナールを開講し、探究活動を行う。生徒は学年やクラスを超えて、自分の課題意識に添ったゼミを選択し受講する。このゼミは地域諸団体の特性を十分に生かしたものであり、フィールドワークや実習形式も積極的に取り入れている。また、ここで得られる貴重な「経験」を「学び」に落とし込むために教員も「教育のプロ」として積極的に関与する。【写真資料】

活動の成果：

- アウトプット
 - 生徒の意識および行動の望ましい変化【資料3】
 - 生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上
 - 地域の、高校に対する理解と期待の向上および協力体制の拡充
- アウトカム
 - 生徒のボランティアや地域活動への参加数の増加
 - 生徒および教員の、特にキャリア教育に関する向学心の向上
 - 高校と地域諸団体の縦の連携および、地域諸団体間の横の連携の強化

アピールポイント（アイデアや工夫）：
 本プロジェクトの正式名称は「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」であり、平成29年からスタートし、今年度3年目を迎えている。PDCAサイクルが機能しており、年度ごとに進化している。初年度は「経験」がメインであったが、2年目は「経験」から「提言」へ、今年度は「経験」⇒「提言」⇒「実践」⇒「評価」まで到達しつつある。地域諸団体と高校の連携が深まり、「経験」が確実に「学び」へと昇華している。また、地域諸団体の協力も年々増加しており、高校を核とするコンソーシアムも拡充している。
 この取組を視察する高校も増加しており、地方の高校の一つのモデルケースとなり得るものとする。

【資料1 概念図】

【資料2 R1 開講ゼミナール一覧】

担当団体(担当者名)	人数	担当教員
A 遠野ふるさと公社 高校生による観光開発	男女計17	小野寺晶子 佐々木知華
B JTB(荒井朋之) 遠野を知り世界に発信(交流)	男女計23	朝倉雄大
C 遠野みらい創りカレッジ(有馬尊久) SDGsで地域創生を実現させよう	男女計18	小原太郎
D 富士大学(内城寛子・高橋雅也) 東京2020パラリンピックラウンド「サッカー」ブラジルチーム ホストタウン遠野市の挑戦	男女計38	長谷川仁 佐藤邦祥
E 遠野テレビ(小笠原 学) 遠高Watching作成	男女計10	米田保弘
F 遠野市(遠野市総務企画部) 高校生の目線で魅力ある広報を作ろう	男女計17	瀬戸睦宏
G 遠野市(健康福祉部医療連携室) 医療・福祉の充実による遠野の安心づくり	男女計24	池田詠 夏谷健一
H 遠野市(子ども政策課) 子育て支援の推進	男女計23	谷上裕子
I 遠野高校(牛崎芳恵・菊池尚子) ヒラメキ! をカタチに	男女計24	牛崎芳恵 菊池尚子
J 遠野高校+盛岡中央高校附属中(下町壽男) 教育から地域課題にアプローチ	男女計16	佐藤結大
K 遠野高校(菊池暁・寺林裕也) 郷土芸能継承の諸課題を考える	男女計15	菊池暁 寺林裕也
L 遠野高校(齋藤耕子・伊藤治子) 遠野イノベーション	男女計9	齋藤耕子 伊藤治子

